

育児を含めた様々な民族慣行が伝承されにくくなっている現代、昔ながらの育児はどのような形で残され、今に伝わっているのでしょうか。すでに子育てを終えた明治・大正生まれのお年寄りと、現在子育てをしている若い母親たちにインタビューをとることによって、通過儀礼としての妊娠・出産・育児の風習を顧みる。インタビューは、妊娠中に行われる儀式、妊娠中の生活、出産方法、出産後の儀式、産後の生活、具体的な育児方法（授乳・離乳・襦袢・トイレトレーニング・寝るときの形態）等について行った。

かつての日本では、お産は不浄のものとして考えられていた。しかし現代では、例えば宮参りに母親も同行するというように、「産の忌」という意識は弱まっている。子育てに関する儀式に関しては、現代風にアレンジを加えながらも、代々それぞれの家で受け継がれているようである。

又かつての母親たちが子育てをしていた頃、お年寄りが何度か「体裁」という言葉を使って語ったように、育児はそれぞれの地域の型に従わざるを得なかった。しかし具体的な育児方法は、各々の家庭状況に合わせたやり方が取られていたようである。授乳の仕方、離乳の進め方や完成時期、襦袢を外す時期等、育児方法に関する「標準」の意識は希薄だったように思われる。

一方価値観も多様化した現代では、育児における地域の型の存在感は軽くなった。しかし育児方法は、非常に画一化されている。育児の「標準値」に関する情報は容易に入手でき、これが実際に子育てをする母親を混乱させているようである。